

ハンセン病市民学会主催

シンポジウム

胎児標本問題から考える 検証の必要性

～ ハンセン病問題は
私たちの『今』を問い続けている ～

司会 酒井 義一 (首都圏市民の会事務局長)

第1部 報告と提題

報告 神 美知宏

(全国ハンセン病療養所入所者協議会 事務局長)

「胎児標本の慰霊祭～全療協の取り組み～」

提題1 宮坂 道夫

「生命倫理の立場から胎児標本問題の底に
何かがあるかを考える」

提題2 青木 美憲

「療養所の医療従事者は胎児標本から
何を教訓とすべきか」

第2部 パネルディスカッション「提題を受けて」

コーディネーター 訓 覇 浩

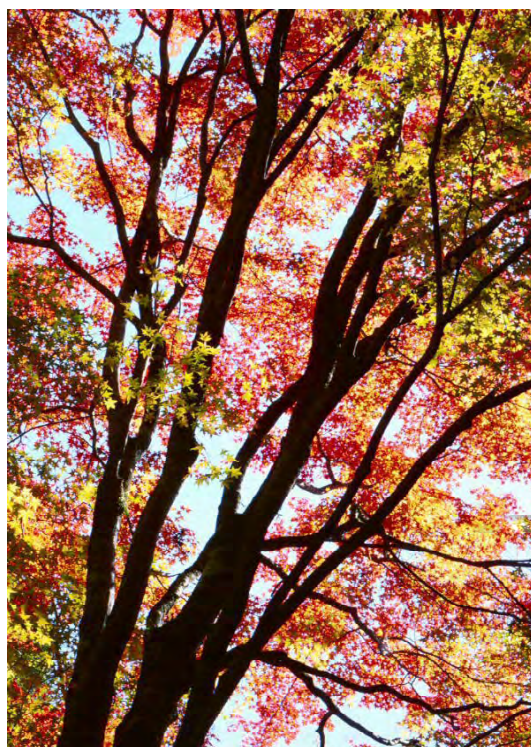
パネリスト 和泉 眞蔵 (ハンセン病専門医)

浜崎 眞実 (カトリック司祭)

遠藤 隆久 (熊本学園大学)

宮坂 道夫 (新潟大学医学部・生命倫理学)

青木 美憲 (前昌久光明園医師)



11月12日 日

FORUM 8

10階 ロイヤルホール

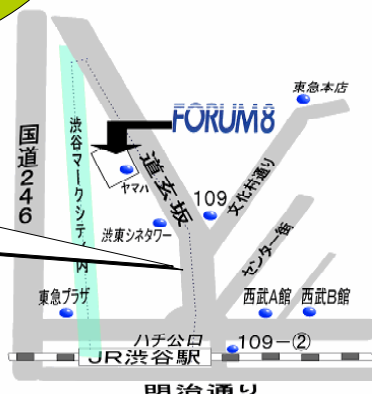
開会 午後1時

(午後4時30分 終了)

会場案内

JR渋谷駅ハチ公口から
道玄坂を登って徒歩400m

東京都渋谷区道玄坂2-10-7



● お問い合わせ先 ●

ハンセン病市民学会

熊本市大江2-5-1

熊本学園大学遠藤研究室

TEL 096(364)5162